

令和元年5月27日現在

機関番号：32665

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K02577

研究課題名(和文) ヴァーチャル方言研究の基盤形成と展開

研究課題名(英文) The study of "virtual dialects": formation and development of the discourse

研究代表者

田中 ゆかり (TANAKA, Yukari)

日本大学・文理学部・教授

研究者番号：40305503

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本課題は、現実の地域・生活と結びついた地域方言に何らかの水準で編集・加工を施した「ヴァーチャル方言」のありようを研究するものである。

本研究により、テレビドラマ・マンガ・ミュージカル・映画・話芸など、現代日本語社会における多種のコンテンツにおいてヴァーチャル方言が用いられていることを明らかにした。また、全国的な方言意識Web調査や「打ちことば」の分析により、ヴァーチャル方言が実際のコミュニケーションにおいて大きな役割を果たしていることも指摘した。

さらに、成果を国内外での講演・発表で積極的に公開し、国際的な研究の基盤整備も進めた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、ヴァーチャル方言という新しい研究領域を切り開くものである。本研究によって、日本語社会におけるヴァーチャル方言の重要性を明らかにした点は、本研究の学術的意義といえる。

本研究における成果は、著作・論文・講演など、多数の媒体で公開した。この中には招待講演9件が含まれており、専門分野に留まらない広い学問領域において高い関心を持たれていることがわかった。さらに、WEBマガジンでの連載により、研究の知見を一般社会に還元することもできた。

国際学会でも積極的な講演・発表を行い、国際的な比較研究の基盤も形成することができた点も、本研究の成果といえる。

研究成果の概要(英文)：This project surveys the current state of research on "virtual dialects."

The concept refers to pseudo-dialects that are modified versions of regional dialects associated with local cultures.

This study demonstrates that "virtual dialects" are widely used in contemporary Japan, appearing in TV drama, manga, musical, film, traditional oral storytelling, and other genres. I also argue that, based on data collected through nation-wide Web surveys on dialect awareness and "typed language" (uchi-kotoba), "virtual dialects" play an important role in real life communications.

Furthermore, to initiate interests in this subject internationally and to establish research infrastructure, these results have been published in lectures and presentations in Japan and abroad.

研究分野：日本語学

キーワード：ヴァーチャル方言 方言コンテンツ 言語意識 打ちことば 方言 共通語 方言キャラ Web調査

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究は、方言の日本語社会における価値と位置づけの変遷についての研究（小林隆・篠崎晃一・大西拓一郎 1996、佐藤和之・米田正人 1999、真田信治・陣内正敬・井上史雄・日高貢一郎・大野眞男 2007、井上史雄 2011、田中ゆかり・前田忠彦 2012）ならびに、金水敏（2003）の提唱する「役割語」研究を学術的背景とするものである。

本研究のキーワードであるヴァーチャル方言とは、現実の地域・生活と結びついた地域方言に何らかの水準で編集・加工を施した仮想の方言である。典型的には、関西人でもないのに「なんでやねん」などという自分自身の生育地と関連のない地域方言を使用するような場合に用いられる「方言」や、創作物における登場人物の使用する「方言」などがそれである。また、生まれ育った土地の方言であったとしても、ヨソモノにもわかりやすく示すために在来の土地のこぼを編集・加工した「方言」を用いることもある。このような生育地方言に基づくヴァーチャル方言は、観光キャッチフレーズや応援メッセージなどとして用いられる（東北大学方言研究センター2012、井上史雄他 2013）。

ここから導かれることとして、日本語社会には「仮想の方言」というものと、それと付随する「方言ステレオタイプ」というものが存在しており、同時にそれらが広く一般に共有されているということである（田中ゆかり 2011）。ヴァーチャル方言、方言ステレオタイプは、ともに言語社会のありようを知るための好適な手がかりということになる。ここに仮想の方言であるヴァーチャル方言と方言ステレオタイプを研究する意義を求めることができる。

2. 研究の目的

本研究では、端緒についたばかりのヴァーチャル方言研究に多角的かつ国際的視点を導入し、その確立とさらなる展開を目指す。ヴァーチャル方言とは、文学作品や、マンガ・ドラマなどの創作物や、言語景観や言語サービス、メール・SNSなどの「打ちこぼ」コミュニケーションに典型的に現れる仮想の方言のことである。このうちポピュラーカルチャーにおいて再提示されるものは、「らしさ」と結びついたステレオタイプ度の高いものが多く、それらは当該言語社会における言語意識を色濃く反映するものである。これら仮想言語の実態や成立背景・変遷をたどることにより、言語社会のありようとその変化を新たに捉え直すことが可能となる。

ヴァーチャル方言は、リアルな言語社会との往還関係によって成立するものであり、一般への影響も大きい。さまざまな言語社会のなりたちを知るための新しい視点を提供する研究トピックである。

本課題では、ポピュラーカルチャーにおける実態と相互作用、言語社会構成員の言語行動と言語意識の両面からヴァーチャル方言研究の深化とさらなる展開を目指した。同時にポピュラーカルチャー研究と言語研究の接点、日本語以外の言語社会との対照研究といった新たな研究課題創出の手がかりを探ることを目的とした。

3. 研究の方法

本研究課題の計画・方法については、以下の3つを柱とした。

ヴァーチャル方言の現れる各種コンテンツの収集とその分析

ヴァーチャル方言に関連する言語行動と言語意識にかんする対人調査の実施と分析：全国を対象とした無作為抽出調査を予定

・ についての分野・地域間対照研究

研究期間を通じて、研究分担者・連携研究者・研究協力者との打ち合わせ・研究会、一般への研究成果公開を随時行った。Web や刊行物による成果公開も継続的に行っていった。

4. 研究成果

大きく5つの点にまとめ、成果を述べる。

(1) ヴァーチャル方言の使用が認められる方言コンテンツの収集とその分析

ヴァーチャル方言研究のため、作中に方言がみられるコンテンツの収集、ならびに分析を行った。具体的には、テレビドラマ（NHK 大河ドラマ、連続テレビ小説、地方局制作ドラマ）、マンガ（九州弁マンガをはじめとする方言マンガ）、ミュージカル（劇団四季「ライオンキング」・宝塚歌劇団「外伝ベルサイユのばら - アンドレ編 - 」、『テニスの王子様』）、映画（幕末太陽傳）・話芸（江戸落語）を取り上げた。

(2) 「2015年全国方言意識 Web 調査」の実施

全国47都道府県に居住する20代以上の男女約1万人を対象とした「2015年全国方言意識 Web 調査」を実施し、方言と共通語に対する意識（言語意識）と、記憶に残る方言コンテンツ・方言キャラにかんするデータを得た。

さらに、2016年度には、新たに全国に居住する約2万人を対象とした方言と共通語の使用意識についてのweb調査を実施した。

(3) 「方言」を見出し・本文・キーワードに含む記事の収集と分析

日本語社会における方言の価値と位置づけの変遷をたどるため、公開されているデータベースに基づき全国一般紙2紙(朝日新聞「聞蔵」、読売新聞「ヨミダス歴史館」)における「方言」を見出し・本文・キーワードに含む記事の収集と分析を行った。

(4) 「打ちことば」に現れるヴァーチャル方言データの収集・分析

「打ちことば」に現れるヴァーチャル方言データの収集・分析を、スマホを用いた Web 調査の形式で行った。この Web 調査では、提示された場面で想定される音声を吹き込む機能や、音声を聞き取りそれに対するイメージを判定する機能を設け、発話・聴取双方の分析を行った。

さらに、「携帯メールコーパス」の整備、SNS におけるヴァーチャル方言の用いられ方などについての研究も並行して進めた。「携帯メールコーパス」は、一般公開するための公開準備を進めている。

(5) ヴァーチャル方言にかんするシンポジウムの開催・関連成果の公開

研究分担者・研究協力者らを含む共編著『時代劇・歴史ドラマは台詞で決まる!』(田中ゆかり・金水敏・児玉竜一編、吉川邦夫・大森洋平共著、林直樹編集協力、笠間書院、2019年)として刊行した。さらに、研究成果を「Web版! 読み解き方言キャラ」として全12回 Webマガジン「Lingua」(研究社)に連載し、公開した。

【引用文献】井上史雄(2011)『経済言語学論考』明治書院/井上史雄・大橋敦夫・田中宣廣・日高貢一郎・山下暁美(2013)『魅せる方言 地域語の底力』三省堂/金水敏(2003)『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』岩波書店/小林隆・篠崎晃一・大西拓一郎(1996)『方言の現在』明治書院/佐藤和之・米田正人(1999)『どうなる日本のことば』大修館書店/真田信治・陣内正敬・井上史雄・日高貢一郎・大野眞男(2007)『シリーズ方言学3 方言の機能』岩波書店/田中ゆかり(2011)『「方言コスプレ」の時代 ニセ関西弁から龍馬語まで』岩波書店/田中ゆかり・前田忠彦(2012)「話者分類に基づく地域類型化の試み」『国立国語研究所論集』3, 国立国語研究所/東北大学方言研究センター(2012)『方言を救う、方言で救う - 3.11 被災地からの提言 -』ひつじ書房

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計11件)

田中 ゆかり、情報化時代の言語コミュニケーション 媒体・手段の特性と年代差、日本語学、依頼原稿、38巻1号、2019、22-35

田中 ゆかり、「方言コスプレ」と「ヴァーチャル方言」:用語・概念・課題、方言の研究、依頼原稿、4巻、2018、71-97

林 直樹、方言スタンプからみる方言コンテンツの全国分布、語文、査読有、160輯、2018、58-51

田中 ゆかり、全国2万人webアンケート調査に基づく方言・共通語意識の最新動向、語文、審査有、158輯、2017年、1-35

URL: http://dep.chs.nihon-u.ac.jp/japanese_lang/pdf_gobun/158/158_13_tanaka.pdf

田中 ゆかり、方言・共通語イメージ その比較と年層差から読み取れること、南山形ことば調査報告書2 新しい方言、依頼原稿、2017年、17-25

田中 ゆかり、第7章 方言 関西人は「いつでもどこでも関西弁」って本当?、データで学ぶ日本語学入門、依頼原稿、2017年、69-83

田中 ゆかり・林 直樹、「打ちことば」におけるキブン表現 スマホ Web 調査に基づく程度差のある感覚形容詞の表現、語文、査読有、156輯、2016年、21-31

URL: http://dep.chs.nihon-u.ac.jp/japanese_lang/pdf_gobun/156/156_05_tanaka-hayashi.pdf

田中 ゆかり・林 直樹・前田 忠彦・相澤 正夫、1万人調査からみた最新の方言・共通語意識 「2015年全国方言意識 Web 調査」の報告、国立国語研究所論集、査読有、11巻、2016年、117-145

DOI: doi/10.15084/00000844

田中 ゆかり、宝塚歌劇『外伝 ベルサイユのばら アンドレ編』に現れるヴァーチャル方言、語文、査読有、153輯、2015年、1-24

URL: http://dep.chs.nihon-u.ac.jp/japanese_lang/pdf_gobun/153/153_y01_tanaka.pdf

田中 ゆかり、ミュージカル『ライオンキング』の「方言キャラ」 トリックスター「ティモン」と「ブンバア」、語文、査読有、152輯、2015年、1-14

田中 ゆかり、言語選択とその背景 東京中心部におけるデパートを中心に、日本学、依頼原稿、40巻、2015年、109-128

〔学会発表〕(計12件)

田中 ゆかり、方言の未来と進化、平成30年度「山形学」どっこい方言は生きている講

座第5回、招待有、2018

田中 ゆかり、方言ヒーロー/ヒロインは幕末に咲く！、時代劇・歴史ドラマは台詞で決まる！ 世界観を形づくる「ヴァーチャル時代語」、一般公開シンポジウム、2018

田中 ゆかり、「方言コスプレ」とその社会的背景、韓国日語日文学会 2017 年冬季国際学術シンポジウム「方言コスプレとコミュニケーション」、招待有、2017

田中 ゆかり、「方言コスプレ」現象：土地から解き放たれる「方言」、プリティッシュコロンビア大学講演、招待有、2017

TANAKA Yukari, The “Dialect Cosplay” Phenomenon: Detaching Regional Dialects from Geographic Localities、METHODS XVI、招待有、2017

田中 ゆかり、テレビドラマと「方言」 ヴァーチャル方言の世界へようこそ、群馬県立女子大学国文学科連続シンポジウム「第1 国語国文学を学ぶ楽しみ 方言研究の楽しみ」、招待有、2017

田中 ゆかり・前田 忠彦・林 直樹・相澤 正夫、2015 年全国方言意識 Web 調査に基づく話者類型、計量国語学会第 60 回記念大会、審査有、2016

田中 ゆかり、「方言ドラマ」からみた日本語社会、第 13 回 MULC 講演会、招待有、2016
MAEDA, Tadahiko・TANAKA, Yukari・HAYASHI, Naoki, Impacts of Sociodemographic Factors on the Type of Regional Dialects Usage in Contemporary Japan、Third ISA Forum of Sociology、審査有、2016

TANAKA Yukari, Virtual Dialects as a Window on Japanese Language and Society、Cornell University EAP Speaker Series Talk、招待有、2016

TANAKA Yukari, 戦後日本における「方言」の価値の変遷: Shifting Valences of Dialect in Postwar Japan、Donald Keen Center of Japanese Culture、招待有、2015

田中 ゆかり、「江戸・東京 WebGIS」からみた江戸・東京圏、TOKYO TEXTSCAPE : Tadashi YANAI Initiative for Globalizing Japanese Humanities、招待有、2015

〔図書〕(計 3 件)

田中 ゆかり・金水 敏、児玉 竜一(編著)、吉川 邦夫・大森 洋平(著)、時代劇・歴史ドラマは台詞で決まる！ 世界観を形づくる「ヴァーチャル時代語」、笠間書院、2018、1-136

田中 ゆかり、方言萌え!? ヴァーチャル方言を読み解く、岩波書店、2016、1-205、付表 1-14

田中 ゆかり(編著)・林 直樹・日野 資純・伊川 公司(著)、神奈川県のことば、明治書院、2015、1-246

〔その他〕

ホームページ等

Web 版！読み解き方言キャラ 研究社 Web マガジン Lingua バックナンバー
http://www.kenkyusha.co.jp/uploads/lingua/lingua_bk01.html#04

田中ゆかり担当授業報告 <http://www.chs-jp.info/tnk/index.html>

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：林 直樹

ローマ字氏名：(HAYASHI, Naoki)

所属研究機関名：日本大学

部局名：経済学部

職名：専任講師

研究者番号(8桁)：70707869

(2) 研究協力者

研究協力者氏名：金水 敏

ローマ字氏名：(KINSUI, Satoshi)

研究協力者氏名：吉村 和真
ローマ字氏名：(YOSHIMURA, Kazuma)

研究協力者氏名：デイビッド・ルーリー
ローマ字氏名：(David Lurie)

研究協力者氏名：セイジ・リピット
ローマ字氏名：(Seiji Lippit)

研究協力者氏名：マイケル・エメリック
ローマ字氏名：(Michael Emmerich)

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。